

NEWSLETTER No.116 TŌYŌ ONGAKU GAKKAI KAIHŌ  
ISSN 1340-5578 The Society for Research in Asiatic Music September 19, 2022

一般社団法人 東洋音楽学会 会報 第116号

発行 一般社団法人東洋音楽学会  
事務所 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号 TEL/FAX 03-3832-5152  
●E-mail : LEN03210@nifty.com ●ホームページ : http://tog.a.la9.jp

## 目次

第11回定時社員総会のお知らせ……………1	ICTM(国際伝統音楽学会)に関するお知らせ……………6
総会への出席と「書面議決書」または「委任状」提出のお願い……………2	東日本支部からのお知らせ……………7
第73回大会のご案内……………2	西日本支部からのお知らせ……………8
第40回田邊尚雄賞アンケートのお願い……………3	山口修先生を偲ぶ……………8
個人情報流出に関するお詫びとご報告……………3	新井弘順師を悼む……………8
情報委員会からのお知らせ……………4	会員異動……………9
会員の受章・受賞……………5	図書・資料等の受贈……………10
会費納入のお願いと大学院生会費割引のお知らせ……………5	新刊書籍……………10
『東洋音楽研究』原稿募集のお知らせ……………5	新発売視聴覚資料……………12
	編集後記……………12

### 第11回定時社員総会のお知らせ

一般社団法人東洋音楽学会 正会員各位  
一般社団法人東洋音楽学会 会長 福岡正太

#### 第11回定時社員総会招集状

一般社団法人東洋音楽学会定款第16条及び第18条の定めに基づき、第11回定時社員総会を下記の通り開催いたしますので、正会員はご出席下さい。

日時 2022年11月12日(土) 17時15分～18時30分

場所 国際基督教大学(ICU) D館オーデトリウム、及びZoom配信

\*オンラインで参加される方にはミーティングID等を電子メールにてお知らせしますので、大会参加申込の時に、必ず電子メールアドレスをお知らせください。

#### 審議事項

第1号議案 役員選任の件

- 第2号議案 令和3年(2021年)度事業報告の件  
第3号議案 令和3年(2021年)度収支決算の件  
第4号議案 令和4年(2022年)8月31日現在貸借対照表および正味財産増減計算書の件  
第5号議案 令和4年(2022年)8月31日現在会員移動状況の件  
第6号議案 その他

#### 報告事項

- ・令和4年(2022年)度事業計画の件
- ・令和4年(2022年)度収支予算の件
- ・その他

\*総会に出席できない正会員の方は、「書面議決書」または「委任状」の提出をお願いします。詳しくは、別項「総会への出席と『書面議決書』または『委任状』提出のお願い」をお読みください。

\*上記以外の議案を提出なさりたい方は、あらかじめ事務局にご連絡ください。

## 総会への出席と「書面議決書」または「委任状」提出のお願い

正会員のみならず、総会の成立には正会員の過半数の出席(議決権の行使)が必要です。

総会への出席(議決権の行使)は一般社団法人の正会員の権利であり、責務でもあります。総会にはぜひご出席ください。やむを得ず総会を欠席する場合は、下記のいずれかによって議決権を行使することができます。

### ①「書面議決書」の提出

書面議決書とは、議案への賛否をあらかじめ表明する文書です。議案書および回答フォーム/書面議決書書式は、10月29日(土)までに学会ホームページ(<http://tog.ala9.jp/>)に掲載されます。担当理事から、10月下旬に「書面議決書提出のお願い」を電子メールにて配信しますので、議案書を読み、11月11日(金)までに、回答フォームで回答するか、書面議決書の書式をダウンロードし、個々の議案への賛否を記入して、議案書に記したメールアドレス宛に返信してください。

インターネットを使わない正会員の方で、書面議決書の提出を希望される方は、学会事務所にご相談ください。

### ②「委任状」の提出

他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができます。委任する方は、同封されている「総会欠席葉書」の委任状の欄に、代理人の氏名とご自身の氏名を記入し押印し、10月29日(土)までに投函してください。代理人は総会に出席する正会員のみが認められます。なお、空欄の場合は、会長に代理人の選任を一任したものと扱います。

## 第73回大会のご案内

東洋音楽学会第73回大会は、対面・オンライン両方で参加が可能なハイブリッド形式で行います。発表者、非発表者ともに、対面・オンラインのどちらの方法によっても参加が可能です。9月末時点での新型コロナウイルス感染状況によっては、全面的にオンラインに切り替えて実施する可能性もあります。その判断については、学会ウェブサイトにてお知らせします。多くの会員のご参加をお待ちしております。

日時	2022年11月12(土)、13日(日)
会場	国際基督教大学：すべての発表はZoomで配信する予定です (参加登録者にリンクとパスワードを配布いたします)

### [第1日] 11月12日(土)

14:10	開会挨拶 (ICU礼拝堂およびZoom配信)
14:20	ICU宗教音楽センター共催 公開講演会 「日本のオルガン」 講演者：金澤正剛 (ICU礼拝堂およびZoom配信)
15:00	ICU宗教音楽センター共催 公開演奏会 「日本のオルガン音楽」 演奏者：岩崎真実子 (ICU礼拝堂) お断り：著作権の都合により公開演奏会は配信ができません。それに代わり、宗教音楽センター所有のオルガン演奏動画を期間限定で大会参加者に配信します。詳しくは大会特設サイトをご覧ください。
16:45	田邊尚雄賞授賞式 (ICU D館オーデトリウムおよびZoom配信)
17:15	第11回定時社員総会 (ICU D館オーデトリウムおよびZoom配信)
18:30	田邊尚雄賞授賞祝賀会、懇親会 (ICUダイアログハウス。状況によってオンラインのみ)

### [第2日] 11月13日(日)

9:00~17:00 (予定)	個人発表および共同発表 (ICU本館教室およびZoom配信) 映像発表 (ICU本館教室およびZoom配信)
--------------------	---

### 参加登録方法

大会に参加するためには事前の申込と参加費の支払いが必要です。

申込時に、対面参加/オンライン参加のいずれかを選択してください。

申込フォームに記入した参加方法で、大会へご参加ください。

### 参加申し込みのURL

<https://forms.gle/cu2r5tS53pBGnqFz6>

### 参加申し込みのQRコード



参加申込者全員に、大会前日までに Zoom ログイン情報 (ID・パスワード) をお知らせします。

参加申込の締切は、10月18日(火)です。対面参加/オンライン参加の選択の変更は、10月29日(土)まで行うことができます。申込後に Google フォームから送られてくるメールにある「回答を編集」をクリックし、フォームに記入した内容を変更してください(この日までの回答に基づき、名札を用意します。それ以降の変更は、会場準備の都合上、対応致しかねますので、どうかご了承ください)。

### 各種締切日

参加費早割期限 10月18日(火)

参加申込と参加費の振込をこの日までに済ませてください。

参加方法の変更締切 10月29日(土)

最終の参加費振込期日 10月31日(月)

### 参加費

フォームによる参加申込にあわせて、以下の大会参加費を必ず10月31日(月)までにお振込みください。事前振込みとなります。当日の支払いはできませんので十分ご注意ください。大会参加費の払込取扱表はお送りしておりません。現金またはネットバンキング、銀行振込で、以下の口座へご入金ください。また、「大会案内」のウェブサイトから PayPal も利用できます。締切までに入金された方だけに Zoom ログイン情報をお知らせします。

正会員 早割 3,000円 [10月18日(火)まで]

早割期限後 3,500円

[10月19日(水)~10月31日(月)]

学生会員\* 早割 1,500円 早割期限後 2,000円

非会員 1,500円 (2日目のみ資料代)

\*ここでの学生会員は正会員のうち大学院生(修士課程・博士課程・研究生)と学生会員を指します。

振込先: 下記のゆうちょ銀行口座にお願い致します(払込取扱表はお送りしておりません)

振込先 ゆうちょ銀行  
口座名義 社) 東洋音楽学会  
シャ) トウヨウオンガクガクカイ  
口座 ゆうちょ銀行から  
記号 10150 番号 93437151  
他金融機関から  
店名〇一八(ゼロイチハチ) 店番 018  
普通預金 口座番号 9343715

### 大会実行委員会

遠藤徹(本部総務) マット・ギラン(委員長) 鯨井正子  
コリーン・シュムコー 鳥谷部輝彦 仲辻真帆 前島美保  
前原恵美(本部経理) 横井雅子 早稲田みな子

### 連絡先

第73回大会実行委員会: tog73icu@gmail.com

## 第40回田邊尚雄賞アンケートのお願い

第40回田邊尚雄賞選考委員会では、新刊情報を広く収集しています。会員の業績を顕彰する貴重な機会ですので、著作物や出版される際は、選考委員会までお早めにお知らせください。自薦のほか他薦も歓迎いたします。

選考対象: 2022年1月1日~12月31日の発行物

受付期間: 随時。締切は2023年2月上旬(予定)。

記入事項: 著者名、書名、発行年月日、発行所名。なお、論文の場合は、掲載誌名、巻次、編集者名、論文頁数も記してください。推薦理由を簡潔にお書き添えいただいても構いません。

送付先: 東洋音楽学会 第40回田邊尚雄賞選考委員会

(郵送) 〒110-0005 東京都台東区上野 3-6-3

三春ビル 307号

(FAX) 03-3832-5152

(電子メール) LEN03210@nifty.com

(\*ご連絡の受け取り確認などは遅れる可能性があります。)

選考委員: 飯野りさ、金城厚、高松晃子、千葉優子、野川美穂子

## 個人情報流出に関するお詫びとご報告

このたび、ホームページ上で公開していた会報の12月号分

に、削除したはずの個人情報がデータとして残っていたことが判明いたしました。この事案は、会員の個人情報をきちんと管理し守っていくべき学会としてあってはならないことであり、関係する皆様に深くお詫びを申し上げます。現在は問題への対処を終え、個人情報をきちんと削除した状態で会報を公開していることを確認しております。万一、個人情報の残留などにお気づきになりましたら、事務局までご一報いただけますようお願いいたします。以下、情報が残っていた状況、対処の概要、今後の防止策についてご報告いたします。

## 状況

学会ホームページ上で公開していた会報の101号および103号から113号のPDFファイルにおいて、個人情報は見かけ上消されていたものの、データがファイルに残っていました。そのため、空白の部分を選択すると、電話番号やメールアドレスなど、半角英数字等で記された個人情報をコピーすることができる状態でした。ただし、これらの号は、フォントに固有の番号で字形を指定しているため、全角文字は文字化けして正しくコピーできませんでした。また、これらのファイルをPDF読み取りソフトで開いても、誌名や広告部分など一部を除き、全角文字については検索できない状態でした。114号でも同様の問題がありましたが、ファイル公開時に問題が発見され、すぐにファイルを差し替えました。

112号については、googleの検索エンジンに情報が収集されており、googleの検索結果を表示する画面において、名前や住所等が一部見える状態でした。ただし、ファイルをダウンロードしても、上記の理由から、通常の方法では全角文字の情報は読み取れませんでした。こうしたファイル(全角文字が検索できないようなPDFファイル)は検索エンジンに情報収集されることは少なく、他の号については検索結果に表示されることは確認できませんでした。112号については、ファイルの状態あるいはgoogleの何らかの技術により、正しい文字に置き換えて情報が収集されたのだと推測しています。なお、googleの検索エンジンを利用しているYahoo! Japanの検索でも同様の結果が出ましたが、別の検索エンジンであるBingでは、検索結果に個人情報は表示されませんでした。

## 対処

印刷業者に会報101号、103号から113号について、個人情報データを削除したPDFファイルの納入を依頼し、ファイルを差し替えました。112号については、googleに対して収集された情報の削除を要請し、その後、古い情報が削除され、差し替えられた新しいファイルの情報と置き換えられたことを確認いたしました。PDFファイル作成を依頼した印刷業者からは、原因と今後の防止策の説明を受け、ウェブで

公開するファイルであることを作業現場としっかり共有し、データ削除の確認を徹底することを申し合わせました。また学会側では、PDFファイル作成に際して個人情報のデータをきちんと削除することを明示的に依頼し、納入されたファイルについては会報編集委員会と情報委員会でダブルチェックすることとしました。

今回、PDFファイルにデータが残っていることについては4月10日の拡大常任委員会で報告され、その後、6月19日にgoogleの検索結果に会報112号の個人情報が表示されることの指摘があり、6月26日に全ファイルの差し替えを完了しました。問題への対処に2ヶ月以上かかったことは、理事会として個人情報流出のリスク評価が不十分であったこと、また、委員会間の調整が不十分であったことに起因すると考えています。これはひとえに、全体を統括すべき会長の責任です。

## 今後の防止策等

情報環境の急速な変化にともない、個人情報保護法は定期的に改正されています。2017年には、東洋音楽学会のような小規模な団体も個人情報取扱事業者とみなされるようになり、2022年からは、その責務がますます重いものとなっています。今後、学会として個人情報の取り扱い方針を定め、学会が保有する個人情報を整理し、管理と利用の方法を見直していきたいと考えています。会員の皆様からご意見がありましたら、ぜひお寄せいただければ幸いです。

会長 福岡正太

## 情報委員会からのお知らせ

### 会員メールアドレス登録などのお願い

学会発行物のメール配信、学会事務の効率化、事務経費削減を進めるため、会員名簿情報登録フォームに最新の正しいメールアドレスなどをご登録ください。引き続き、会報などのデジタル配信希望を募っております。

また運用試行を始めている情報交換MLへの参加も募っております。詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください。

なおスマホやタブレット端末からは、QRコードで登録ができます。



## 会員の受章・受賞

### ◇徳丸吉彦さんが瑞宝中綬章を受章

令和4年の春の叙勲に際して、本学会の徳丸吉彦さんが瑞宝中綬章(教育研究功勞)を受章されました。

### ◇島添貴美子さんが2020年度小島美子・藤井知昭記念日本民俗音楽学会賞を受賞

本学会の島添貴美子さんが、著書『民謡とは何か?』(音楽之友社、2021年)でのすぐれた業績に対して、2020年度小島美子・藤井知昭記念日本民俗音楽学会賞を受賞されました。

## 会費納入のお願いと大学院生会費割引のお知らせなど

### 1. 会費納入のお願い

2022年9月から新しい年度(2022年度)が始まりました。会費未納の方は、金額をお確かめの上お払くださいませよう、お願い申し上げます。振込用紙を紛失された場合は、下記学会口座宛にお振込ください。

正会員：8,000円

学生会員(大学院生を除く)、および割引申請者：6,000円

### ○郵便局からの払込

ゆうちょ銀行[口座番号] 00160-6-55723

[加入者名] 一般社団法人東洋音楽学会

### ○他金融機関からの振込

ゆうちょ銀行[支店名] 〇一九(ゼロイチキキュウ)店(019)

[当座] 0055723

### ○オンライン決済サービスによる納入

ペイパル(PayPal)によるオンライン決済で会費が納入できるようになりました。学会ウェブサイトのトップページ(<http://tog.a.la9.jp/>)の「入会方法はこちら」をクリックし、「入会方法」のセクションをご覧くださいと納入ボタンがあります。オンライン決済にはペイパルへのログインが必要です。

ペイパル・アカウントをお持ちでない方は、アカウントを開くと送金できます(アカウント開設費無料)。なお、オンライン決済には手数料が発生するため、納入金額は以下ようになります。

正会員：8,350円

学生会員(大学院生を除く)、および割引申請者：6,280円

### 2. 会費割引制度のお知らせ

本学会には、夫婦・親子割引、大学院生(博士課程・修士課程)・研究生割引の制度があります。それぞれ条件や申込方法が異なります。

学会のホームページ(<http://tog.a.la9.jp/about.html#7>)でご確認の上、お申し込みください。なお、大学院生の割引制度を受けるためには「大学院生会費減額措置願い」と学生証のコピーを、また研究生の割引制度を受けるためには、「研究生会費減額措置願い」と学生証のコピー、履歴書が必要です。次年度以降も継続して減額措置を希望する場合は、毎年、前年度末すなわち8月31日までに、「減額措置願い」を提出する必要があります。

### 3. 会費の滞納者へのご注意

滞納がありますと、会員の権利(研究会・大会での発表、学会の発行物の受取)が行使できないことがありますのでご注意ください。

### 4. 卒論・修論の発表者へのご注意

発表を機に入会された会員にも、新年度の会費納入義務が発生いたします。退会するためには退会届が必要です。その旨ご了解のうえ、会費の納入にご協力ください。

## 『東洋音楽研究』原稿募集のお知らせ

学会機関誌『東洋音楽研究』第88号(2023年8月刊行予定)の原稿を募集いたします。

投稿を希望される方は、学会機関誌最新号に掲載予定の投稿規定および学会ホームページ掲載の「投稿の手引き」をよくお読みの上、ご投稿ください。「投稿規定」「投稿の手引き」は機関誌編集委員会で改定を行うことがあります。必ず最新号でご確認ください(学会ホームページで閲覧する場合、最新のものを取得するために、ページの再読み込みを必ずおこなってください)。分量の限度の守られない投稿がしばしば見受けられます。ご注意ください(字数を必ず明記してください)。

送付先：〒110-0005

東京都台東区上野3-6-3三春ビル307号

東洋音楽学会事務局内 機関誌編集委員会

Tel: 03-3832-5152(Fax 兼)

送付方法：プリントアウトした原稿を郵送してください。

ただし、書留郵便にはしないでください。

なお、封筒の表に、「機関誌投稿原稿在中」と明記してください。

締切：2022年12月5日(月)必着

## ICTM (国際伝統音楽学会) に関するお知らせ

### 1. 第46回 ICTM 世界大会の報告

日程：2022年7月21日～27日

開催地：リスボン新大学 (Institute of Ethnomusicology - Center for Studies in Music and Dance, NOVA School of Social Sciences and Humanities, New University of Lisbon (NOVA-FCSH))

テーマ：

1. Engaging Global Health and Climate Crises through Music and Dance
2. Dance, Music, and Human Rights: Coexistence and Inequalities in the Contemporary World
3. Approaches to Archival Practices
4. Connected Communities: Ocean Trajectories and Land Routes
5. Music and Dance Cosmopolitanisms
6. Music and Dance Industries
7. New Research on Other Topics

ポルトガルのリスボン新大学にて、去る2022年7月21日～27日、第46回ICTM世界大会が開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当初予定されていた2021年7月から延期となり、ICTM世界大会としては初の対面・オンライン双方で参加が可能なハイブリッド式大会として行われました。感染状況が急激に悪化したこともあり、当学会からの対面参加者は数名でしたが、オンライン参加者も含めると、発表者は10名を超えました。

8時間という時差、また場内の反響や音量の問題による会場の音声の聞きづらさなどから、オンライン参加者にとっては必ずしも良い条件ではありませんでした。また、閉会式のパフォーマンスは、著作権上の都合によりオンライン配信されず、その間オンライン参加者には真っ黒な画面が表示されるなど、オンライン参加者に対する配慮が若干欠けていたことは否めません。しかし、対面参加がかなわない状況におい

て、オンラインで発表を行なったり聞いたりすることができたことは、これまでにない大きな変化でした。今後、技術的な問題の改善を含め、対面・オンライン、双方の参加者にとってより良い環境が整備されることを期待したいと思います。対面参加者を代表して、鈴木麻菜美氏からもご報告を頂きましたので、以下に転載します。

(以下、鈴木麻菜美氏より)

学会史上初となるハイブリット式で開催された今回の会議には、対面・オンラインを合わせて745名が参加し、ほとんどのセッションに一人以上のオンライン発表者がいる割合となっていました。そのため会場の様子からもこれまではなかった多くの試みが見られ、例えばセッションの会場となっている各教室には集音マイクとカメラが設置されており、これにより(時折トラブルはあったものの)対面参加者・オンライン参加者間のコミュニケーションが可能となっていました。発表スライドは事前に運営側に提出することを求められたのですが、これは大学側のZoomアカウントを使ったオンラインでの発表の共有を行うため、結果として発表者の入れ替えは例年よりタイムロスなくスムーズに行われているように見えました。また、各教室にはリスボン新大学の学生スタッフが2名ずつ配置されており、Zoomの管理やスライドの切り替え、音声・映像の配信トラブルへの対応など、行き届いたサポートを担ってくれました。

発表の内容としては、伝統音楽のアーカイブ化やコミュニティの越境など大会テーマとして提供されているもののみならず、それらにコロナ禍における音楽の実践状況の変化や音楽を利用した試みの言及を加えたものが目立ち、今の時勢を感じさせるものとなっていました。

例年参加者に楽しみにされているカルチュラル・プログラムとしては、リスボン郊外のマフラへのエクスカージョンで世界唯一の6台セットのオルガンやカリヨンの演奏鑑賞があったほか、ランチタイム・コンサートやイブニング・コンサートでは現地演奏家によるファド、女性の労働歌の合唱やヴィオラ・カンパニャ (Viola Campaniça ポルトガルの弦楽器) をはじめとしたポルトガル伝統音楽、さらにはアフガニスタンの合奏やカーボベルデの合唱など、さまざまな音楽が参加者を楽しませてくれました。セッション開始の9時から夜のコンサートが終わる23時近くまで、一日を通して非常に充実したプログラムでした。

(鈴木麻菜美氏の報告ここまで)

### 2. 第47回 ICTM 世界大会のお知らせ

第47回ICTM世界大会は、下記の要領で開催されることになりました。去年から延期になった今年のポルトガル大会

から間を空けずに、従来の奇数年での開催となります。

日程：2023年7月13日～19日

開催地：ガーナ大学（レゴン）

テーマ：

- 1) African Music and Dance: Past, Present, and Future Approaches to Research
- 2) Decolonization in Music and Dance Studies
- 3) Music, Dance, and Well-Being: Impacts from and Responses to the COVID-19 Pandemic
- 4) Gender and Sexuality in Global Music and Dance
- 5) Popular Music, Dance, and Activism
- 6) Conflict and Peace-Making through Music and Dance
- 7) Exploring the Materials of Music and Dance: Instruments, Bodies, Technologies
- 8) New Research

各テーマの詳細は、ICTMのウェブサイト (<http://ictmusic.org/ictm2023/>) をご覧ください。

発表形態：

- 1) 個人発表
- 2) 演奏を含む個人発表
- 3) 3-4名によるパネル
- 4) フィルム/ビデオ発表
- 5) 4-5人によるラウンドテーブル

各発表形態の詳細については、ICTMのウェブサイト (<https://ictmusic.org/ictm2023/submit>) をご覧ください。

発表申込：

上記ウェブサイトより、希望する発表形態のリンクを開き、申し込んでください。

申込締切：2022年9月30日

採択結果の通知：2022年12月予定

### 3. 第7回 ICTM 東アジア音楽研究会シンポジウム日本開催のお知らせ

ICTM 東アジア音楽研究会 (Study Group on Musics of East Asia = MEA) の第7回シンポジウムが2024年の夏に日本で開催されます。

日程：2024年8月23日～25日

開催地：国立民族学博物館

本大会は、国立民族学博物館と東洋音楽学会の共催により

行われます。詳細は追ってお知らせいたします。

現地大会実行委員 (Local Arrangement Committee 敬称略、五十音順)：

小塩さとみ、マツト・ギラン、寺田吉孝、福岡正太、福岡まどか、劉麟玉、早稲田みな子

### 4. Yearbook for Traditional Music バックナンバーのオンライン・アクセスについて

ICTM 会員の特典として、学会誌 *Yearbook for Traditional Music* のバックナンバー (1981年～現在)、および同誌の前身である *Yearbook of the International Folk Music Council* (1969-1980) と *the Journal of the International Folk Music Council* (1949-1968) のバックナンバーがオンライン上で無料閲覧できます。ぜひご利用ください。閲覧方法は以下の通りです。

- ① ICTMのウェブサイト (<http://ictmusic.org/>) にログインする。
- ② 左側に出てくる“Member Service”のメニューから“Your Account”を選択する。
- ③ “Benefits for members in good standing”の一覧から“Access the *Yearbook for Traditional Music* at Cambridge Core”を選択する。
- ④ *Yearbook for Traditional Music*のトップページが開き、検索ウィンドウが現れる。
- ⑤ 検索ウィンドウにキーワードや著者名を入力して論文検索ができる他、その下にあるメニューから、最新号は“latest issue”、その他のバックナンバーは“all issues”をクリックして閲覧が可能。
- ⑥ 記事の一覧が表示されたら、閲覧したい論文にチェックを入れ、左側のメニューの“Actions for selected content”からPDFダウンロード、あるいはKindleやGoogle Driveへの転送などが可能。

(ICTM 担当委員：早稲田みな子)

### 東日本支部からのお知らせ

◇定例研究会発表募集 (2月例会) について

東日本支部では、2023年2月4日(開催方式未定)の定例研究会における発表を募集しています。

発表をご希望の方は、発表種別(研究発表・報告等)、発表題目、要旨(800字以内)、発表希望月、氏名、所属機関、

連絡先(住所、電話、E-mail)を明記の上、11月20日までに、東日本支部事務局にメールでお申し込みください。

なお、発表希望をご提出後1週間しても支部事務局から連絡がない場合には、メール事故等の可能性がありますので、お手数ですが再度ご連絡ください。

#### ◇「会員の声」投稿募集

東日本支部発行「東日本支部だより」には、会員の皆様からの情報を掲載する「会員の声」欄を設けています。研究会、講演会、展示会など、会員の活動に関連する情報がありましたら、東日本支部事務局までお知らせください。投稿方法などの詳細は『東日本支部だより』の最終ページをご覧ください。

[東日本支部事務局] E-mail: tog.higashi@gmail.com

◇例会情報は支部ホームページで紙媒体より早くご覧いただけます。

HPの例会情報は、「支部だより」や「例会案内チラシ」がお手元に届く1週間前には公開されます。HPで情報をチェックし、例会参加手続きをお早めにお済ませください。

## 西日本支部からのお知らせ

西日本支部定例研究会での発表を希望される方は、発表種別(研究発表・修論博論発表・報告等)、発表題目、要旨(800字以内)、氏名、所属支部、所属機関、連絡先(住所、電話、E-mail)、発表希望時期を記して、支部事務局までお申し込みください。

[西日本支部事務局]

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 京都芸大伝音センター 竹内有一研究室気付

E-mail: ytake2395@gmail.com

## 山口修先生を偲ぶ

2022年4月21日、長年にわたって東洋音楽学会に貢献された山口修(1939-2022)先生が逝去されました。新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い、ご親族とごくわずかな関係者のみで22日に通夜、23日に告別式が執り行われましたが、その訃報は、瞬く間に国内外の方々に知れ渡りました。たくさんのお手紙や資料に囲まれて研究に勤しみながらも、朗らかで、性別、国籍、社会的立場などに拘らずあらゆる人に対し

て平等に接して下さった山口先生の在りし日のお姿をメールのやり取りを通じて偲び、共に別れを惜しみました。

山口先生は、1964年ハワイ大学マノア校大学院修士課程に進学され、パーバラ・B・スミス(1920-2021)同名誉教授の勧めで、1965-1966年に8カ月ベラウ(パラオ)でフィールドワークをされました。「エクセレントな学生」と評判だった山口先生は、ベラウの音楽と舞踊の全貌を修士論文にまとめあげ、1967年に同課程を修了されました。そして、同年ウェスリヤン大学大学院博士課程に進学され、アメリカ本土における民族音楽学の熱い議論を目の当たりにされました。

翌年10月帰国され、武蔵野音楽大学(1969-1976)、大阪大学(1976-2003)を拠点に研究と教育に従事され、大阪大学退官後には放送大学、南華大学(台湾)の客員教授として教鞭を執られました。過去の機関誌『東洋音楽研究』には、山口先生が米国からの帰国後に参事、大阪大学に異動後に関西地区委員を務められた後、理事、関西支部長、田邊尚雄賞選考委員、監事、日本学術会議派遣委員など、各複数年度担われたことが記されています。東洋音楽学会の活動を常に牽引されたことに対して、あらためて敬意を表します。

山口先生は、音楽学者と社会の互恵の関係に則った「応用音楽学」を構想されています(『応用音楽学』放送大学教育振興会、2000)。その萌芽は、1974年からの国際交流基金主催「アジア伝統芸能の交流事業」に見られたとご自身が回想されています。また、国際的学術交流や外国人研究者の招聘、留学生の受け入れも推進なさいました。『水の淀みから—ベラウ文化の音楽学的研究』(大阪大学学位請求論文、1990)の中国語版(1999)、CD『記憶・帛琉』(国立台湾師範大学・パラオ博物館共同制作、2014)などの出版により、そのご研究は中国語圏でも知られています。

こうした山口先生の功績を讃えて、第四回京都音楽賞(1989)、ベトナム政府文化戦士勲章(1999)、第10回小泉文夫音楽賞(1999)、兵庫県功労者表彰(2001)、第22回田邊尚雄賞(2004)、瑞宝小綬章(2022)が授与されました。「世のため、人のため」を口癖として、ご自身に鞭打ってこられた山口先生、先立たれた最愛の奥様と共にどうぞゆっくりと安らかにお休みください。

小西潤子

## 新井弘順師を悼む

声明の大家、新井弘順師が、3月29日に逝去された。1944年生まれの新井弘順師が満78歳になる2日前だった。埼玉県所沢市にある真言宗豊山派の寺院、宝玉院と普門院の住職を務めながら、声明の継承と普及に情熱を注いでこられた。1972年



以降、国立劇場の公演への出演のほか、20数回に上る海外公演への参加、国立劇場での天台宗の声明家との交流から生まれた「声明四人の会」(1997年結成)改め「声明の会・千年の声」(2003年～)などの活動の中で、古典のみならず、国内外の作曲家による作品の誕生にも深く関わり、声明が舞台芸術として認識されていく中で大きな役割を果たされた。

弘順師とのご縁は、上野学園日本音楽資料室での出会いから始まった。来日した1980年の2年後、東京芸術大学での勉強の傍ら、同資料室に通うようになり、室長の福島和夫先生の下で既に研究員を務めていた弘順師と、やがてご家族の皆さんとも親しくなった。弘順師が研究員になったのは、師匠であられた大僧正青木融光師の演唱を記録したレコードアルバム『四座講式』(日本コロムビア、1978年)の、長大な解説を書くために通っていたことがきっかけだったそうだが、解説を改めて読むと、弘順師の研究熱心なところが十二分に発揮されていたことがわかる。

その後の弘順師の研究は、緻密な史料調査に基づき、宗派の垣根をのり越える内容となっていく。福島先生に同行し、関東では称名寺(神奈川県立金沢文庫)や日光輪王寺、関西では仁和寺、東寺、醍醐寺、高野山、西大寺、三千院などで調査を行なった。私が参加した醍醐寺での調査の際、真夏という過酷な条件下、一心不乱に書誌を取り、内容について検討し、記録していく弘順師の姿は印象的だった。

1986年春、世界最古の現存印刷楽譜、文明四年版『声明集』(1472年刊)を含む、「日本仏教音楽の史料」なる展覧会がケルンの東アジア美術館で開催された。弘順師の執筆による展覧会目録の内容は、出陳史料に加え、声明の歴史、音楽理論や記譜法、法要の諸形式など、広範囲に亘った。展覧会期間中に開かれたシンポジウムで、弘順師は「日本の仏教音楽—声明—記譜法の変遷について」という題で発表したが、翌々の論文「声明の楽譜と記譜法の変遷」(岩波講座『日本の音楽アジアの音楽』第4巻)は画期的なものとなった。後年の弘順師監修『新義真言声明集成 楽譜篇』第2巻(真言宗豊山派仏教青年会出版委員会、1998年。第16回田邊尚雄賞)や『豊山声明大成』第1集(豊山声明大成刊行会、2006年)は、研究者にとっても継承者にとってもたいへん貴重な存在である。

残念なのは、弘順師の論文集が出版されていないことだ。計画はあったようだが、果たされぬまま、あの素晴らしいお声と、数々の知識とを、あの世に持って行ってしまわれた。安らかに眠って頂きたいが、それには残された我々がお志を受け継いでいかなければならない。

スティーヴン・G・ネルソン

## 会員異動

# 個人情報のため削除

## 個人情報のため削除

### 図書・資料等の受贈

(2022年5月～7月、到着順)

『フィールド・レコーディング入門—響きの中で世界と出会う』柳沢英輔

フィルムアート社

『楽道』5,6,7月号

(公財)正派邦楽会

『能楽資料センター紀要』No.33

武蔵野大学能楽資料センター

『ブータンの遊び歌ツァンモの研究—21.5世紀音楽教育への序章』伊野義博・黒田清子・権藤敦子編著

日本・ブータン民俗音楽研究会

『雅楽だより』第70号

雅楽協議会

『歴史学としての日本音楽史研究』(日本史研究叢刊42)福島和夫・上野学園大学日本音楽史研究所編

和泉書院

『東方學會報』No.122

(一財)東方学会

### 新刊書籍

『朝倉撰の見つめた世界：絵画と舞台と絵本と』朝倉撰、神奈川県立近代美術館(編著)ほか、青幻舎、2,750円

『新しい音楽のおさらい：日本のわらべうたと、ヨーロッパの音と、世界の音と』杉原由利子、赤塚太郎、共同音楽出版社、2,200円

『アメリカ日系社会の音楽文化：越境者たちの百年史』

早稲田みな子、共和国、8,580円

『イラン音楽：声の文化と即興(オンデマンド版)』

谷正人、青土社、3,300円

『インド音楽とカレーで過ごす日々』

石濱匡雄、LCCインセクツ、1,980円

『歌合を読む：試みの和歌論』錦仁、花鳥社、3,960円

『歌あそび』伝承遊びを伝える会、文溪堂、2,750円

『謡の家の軌跡：浅野太左衛門家基礎資料集成(研究叢書

543)』大谷節子(編著)、和泉書院、13,200円

『歌う民衆と放歌高吟の近代：放歌民衆から唱歌・軍歌を歌う国民へ』永嶺重敏、勉誠出版、3,850円

『演奏家が語る音楽の哲学(講談社選書メチエ)』

大嶋義実、講談社、1,760円

『演奏する喜び、考える喜び』チャールズ・ローゼン、キャサリン・テマーソン、笠羽映子(訳)、みすず書房、

3,080円

『沖縄のことを聞かせてください』宮沢和史、双葉社、

2,420円

『沖縄文化論そのII 音楽』長嶺安一、榕樹書林、1,100円

『音楽アナリーゼのための実践ガイド：実習図説・音楽用語集図表』ナジ・ハキム、マリ=ルナデット・デュフルセ、

野平多美(訳)ほか、音楽之友社、3,960円

『音楽家である前に、人間であれ!』

石田泰尚、音楽之友社、1,980円

『音楽交流のはじまり：19世紀末ウィーンと明治日本』オットー・ビーバ、イングリット・フックス、武石みどり(編

著)、左右社、2,860円

『音楽と戦争のロンド：台湾・日本・中国のはざままで奮闘した音楽家・江文也の生涯』劉美蓮、西村正男(監訳)、

廣瀬光沙(訳)集広舎、3,850円

『音楽とファッション：6つの現代的視点』

青野賢一、リットーミュージック、2,640円

『かかわりあいの人類学』栗本英世(編著)、村橋勲(編

著)、伊東未来(編著)ほか、大阪大学出版会、2,750円

『カバノキの文化誌(花と木の図書館)』アンナ・ルウィントン、野村真依子(訳)、原書房、2,640円

『奇跡の童謡：《夕焼小焼》の作曲者を訪ねて』

山内喜美子、大空出版、1,980円

『国を越えてアジアの芸術』高橋宏幸、花崎攝ほか、

彩流社、3,850円

『現代解釈明治官製唱歌読本』ことのは会(編著)、

春秋社、3,850円

『現代東南アジアにおけるラーマーヤナ演劇：インドネシア・カンボジア・シンガポール・タイ』福岡まどか(編

- 著)、青山亨、平松秀樹ほか、めこん、2,970円 11,000円
- 『古楽の終焉：HIP〈歴史的知識にもとづく演奏〉とはなにか (Booksウト)』ブルース・ヘインズ、大竹尚之 (訳)、アルテスパブリッシング、4,180円
- 『ことばと呪力：ヴェーダ神話を解く』川村悠人、晶文社、2,530円
- 『籠神社の総合的研究』海部毅成、三橋健、清文堂出版、17,600円
- 『コルトー＝ティボー＝カザルス・トリオ：二十世紀の音楽遺産』フランソワ・アンセルミニ、レミ・ジャコブ、桑原威夫 (訳)、春秋社、2,750円
- 『儒教・仏教・道教：東アジアの思想空間』菊地章太、講談社学術文庫、968円
- 『祝祭芸術：再生と創造のアートプロジェクト (文化とまちづくり叢書)』加藤種男、水曜社、3,960円
- 『ジョージ・セル：音楽の生涯』マイケル・チャーリー、伊藤氏貴 (訳)、鳥影社、4,180円
- 『初期歌舞伎・琉球宮廷舞踊の系譜考：三葉葵紋、枝垂れ桜、藤の花』児玉絵里子、錦正社、11,000円
- 『ストラヴィンスキー：《春の祭典》バレエ管弦楽曲 (ON BOOKS advance もっときわめる!1曲1冊シリーズ 02)』満津岡信育、音楽之友社、1,320円
- 『スマート奏法習得術：チナイ式無駄なくピアノを操る極意』智内威雄、音楽之友社、2,200円
- 『世界の仮面文化事典』吉田憲司 (編著)、国立民族学博物館 (特別協力)、丸善出版、19,800円
- 『政治と音楽：国際関係を動かす“ソフトパワー”』半澤朝彦 (編著)、晃洋書房、3,080円
- 『立ち上がる艦砲の喰残し：沖縄における教育・文化の戦後復興』齋木喜美子 (編著)ほか、関西学院大学出版会、1,540円
- 『多文化共生時代への経済社会：アジア・欧州との交流がもたらすもの』野口教子 (編著)、芦書房、2,200円
- 『魂の声をあげる：現代史としてのラップ・フランセ』陣野俊史 (著)、アプレミディ、2,420円
- 『近松半二：奇才の浄瑠璃作者』原田真澄 (編著)、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 (監修)ほか、春陽堂書店、2,000円
- 『地球の音楽』山口裕之 (編)、橋本雄一 (編)、東京外国語大学出版会、1,980円
- 『銅鑼』藤森栄一、雄山閣、2,640円
- 『豊田中央図書館の江戸期学芸書：雅楽資料『山鳥秘抄』とその周辺 (中京大学文化科学叢書23)』明木茂夫 (編著)、汲古書院、6,050円
- 『日本における〈呉越説話〉の展開』程国興、汲古書院、
- 『日本民俗分布論：民俗地図のリテラシー』安室知、慶友社、9,900円
- 『パイロイトのフルトヴェングラー：バルバラ・フレーメル夫人の独白』バルバラ・フレーメル、眞峰紀一郎、中山実 (取材・文)、音楽之友社、2,200円
- 『バロック演劇の詩学：比較演劇論』藤井康生、森話社、4,620円
- 『ピアノの錬金術師：評伝シャルル＝ヴァランタン・アルカン』B.フランソワ＝サベ、春秋社、3,740円
- 『フィールド・レコーディング入門：響きのなかで世界と出会う』柳沢英輔、フィルムアート社、2,640円
- 『フィールドワークの現代思想：パンデミック以後のフィールドワーカーのために』遠藤英樹 (編)、ナカニシヤ出版、2,640円
- 『船旅の文化誌』富田昭次、青弓社、2,200円
- 『ベートーヴェン：交響曲第9番 交響曲 (ON BOOKS advance もっときわめる!1曲1冊シリーズ01)』相場ひろ、音楽之友社、1,320円
- 『ベートーヴェン症候群：音楽を自伝として聴く』マーク・エヴァン・ボンズ、堀朋平 (訳)、西田紘子 (訳)、春秋社、3,850円
- 『ポップなジャポニカ、五線譜に舞う：19～20世紀初頭の西洋音楽で描かれた日本』光平有希 (編著)、臨川書店、3,960円
- 『「未熟さ」の系譜：宝塚からジャニーズまで (新潮選書)』周東美材、新潮社、1,705円
- 『メディアとしての身体：世界／他者と交流するためのインタフェース (知の生態学の冒険J・J・ギブソンの継承 6)』長滝祥司、東京大学出版会、3,850円
- 『メンデルスゾーンの宗教音楽：バッハ復活からオラトリオ《パウロ》と《エリヤ》へ』星野宏美、教文館、2,200円
- 『「面」と民間伝承：鬼の面・肉付き面・酒呑童子』西座理恵、七月社、7,480円
- 『モスクワ音楽都市物語：19世紀後半の改革者たち』S.K.ラシチェンコ、広瀬信雄 (訳)、明石書店、2,750円
- 『蘇る、安川加壽子の「ことば」』安川加壽子、青柳いづみこ (編)、音楽之友社、2,640円
- 『歴史学としての日本音楽史研究 (日本史研究叢刊42)』福島和夫 (編)、和泉書院、16,500円
- 『ワーグナー：《トリスタンとイゾルデ》オペラ (ON BOOKS advance もっときわめる!1曲1冊シリーズ03)』広瀬大介、音楽之友社、1,320円

## 新発売視聴覚資料

### ●CD

『今藤政太郎作品集より「螢」』今藤政太郎、VZBG-65、

2,420円

『吟詠の友(37) : 2021年度 日本コロムビア全国吟詠コンクー

ル優秀者～練習用吟詠・伴奏付』 COCJ-41783、2,600円

『コロムビアおはこ定番民謡集』 COZJ-1919-23、8,800円

『ていーだかんかん、ちむどんどん～こころおどる沖縄の

歌ベスト～』 COCP-41806、2,420円

## 編集後記

今号の記事で福岡会長からご報告がありました通り、ウェブ版の過去の会報から個人情報の流出がありました。会報担当理事はともにこのことを重く受け止めております。関係者の方々には深くお詫び申し上げます。情報のウェブ化が進み、個人情報に関する意識も変化しているなか、従来と同じように個人情報を会報に掲載すること自体の是非についても、引き続き再検討の必要がありそうです。会員の皆様も担当理事までご意見をお寄せくだされば幸いです。

増野亜子

会報編集委員会

理事：澤田篤子、増野亜子

委員：山下正美、山本華子

参事：井上環、今泉佳奈、神田花菜子、西浦まどか、

吉岡倫裕